

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年5月8日

【評価実施概要】

事業所番号	1173200930
法人名	株式会社メディカル・コンサルタンツ
事業所名	グループホームいこいの里
所在地	〒350-0302 埼玉県比企郡鳩山町大橋984-1 (電話) 049-296-4108
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年5月8日

【情報提供票より】(平成20年4月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 9人, 非常勤 11人, 常勤換算 14.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000円又は70,000円	その他の経費(月額)	2,000円 ~ 2,500円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり1,200円			

(4) 利用者の概要(4月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	70 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関


協力医療機関名	翠心会敬愛病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは緑豊かな閑静な環境にあり、広いキッチンとロジ風のゆったりとした共有空間もある。また、利用者目線の設計に加え、自立支援の中心に散歩と3食手作り食の生活を据え、職員と利用者で献立を考えている。理念に「地域との連携による利用者本位の生活を鳩山で」と地域密着型を明記し、「笑顔に勝る介護なし」を介護方針としている。管理者と職員の信頼関係もよく、安心して働ける体制が作られ職員の定着もよい。その根底に地域と利用者・家族と職員の三者の関係を大切にという管理者の考え方がある。人材育成に意を注ぎ、より良い介護力を発揮してもらうために、内部研修は元より外部研修の参加を奨励し、専門職資格取得の体制に工夫し、シフトの配慮や先輩による支援体制も取られている。選択できる自由を大切に、利用者本位の対応と安心安全の体制が利用者、家族、地域にも浸透し、信頼が得られている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 理念の明確化と運営方針・介護方針との整理統合を行い各々分かり易い言葉で表現されている。人材育成と様々な工夫から、利用者、家族の信頼を得られる介護が実践されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価及び外部評価の意義を十分理解し、結果を管理者と職員が共有し、運営課題を運営推進会議に報告しながら、より良いホームへと改善に努力している。今回の自己評価では権利擁護に関する学習を深めたい点以外は達成され、外部評価においても大きな問題点はなかった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月1回既に11回開催しており、事業報告と意見交換の場とし、頂いた意見や要望を参考に運営改善に努めている。構成メンバーは、社会福祉協議会、民生委員、家族代表、町役場の高齢者担当職員、いこいの里第三者委員及び利用者からなり、次回からは町のお米屋さん等にも参加してもらい、広く意見を求められるように努力している。また、町役場には会議の報告書を出している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 基本的に「苦情になる前にコミュニケーションを」の考え方と、自分達の親にされて嫌な事はしないを合言葉に対応している。苦情相談ポストには意見は入っていない。また、ポストには、職員外の第三者委員・町役場担当課等外部の相談窓口の連絡先を記している。家族とは楽しくクリアな考えで接し、家族宛の手紙は通り一遍の報告書にあらず、利用者の担当者が直筆の手紙で家族の安心と信頼を得ている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ケアマネージャー学習会や包括支援センターとの交流で関わった人に、何時でも情報を発信できるような広報を出していくうちに、地域にホームの存在が浸透し認められるようになった。今では地域に根付いて、職員も地域の人と日常の挨拶や交流が出来るようになってきている。町内会や地域のイベントに参加し、ボランティアも多く、訪問・見学者も多い。

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との連携により、利用者本位の生活を鳩山で」をグループホームの理念として掲げ、地域と利用者本人と家族の三者の関係が大切に考えている。地域密着型を推進するようになって、地域に情報も伝わり、見学者やボランティアも増えている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「笑顔に勝る介護なし」を目標に日々介護に当たっている。職員の名札の裏には理念と介護目標が記されており、介護の折に迷いが生じた場合はそれを読み直して自らの介護を見つめなおすようにしている。毎月のスタッフ会議は伝達事項の他はケース検討を中心に実施しているが、理念を確認する場ともなっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人と交流が図られているおり、地元に根付いている。散歩の折の挨拶に始まり、毎月のケアマネ学習会や包括支援センターとの交流等で、困っている人に何時でも発信できるように広報紙を出している。地域のボランティアも多く、地域主催のイベントへの参加、地域資源の活用、町内会の入会等も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を充分認識し、スタッフ会議で意見をすり合わせ確認してまとめている。結果は職員、家族、運営推進会議に報告して共有化を図り、玄関掲示板にも掲示している。管理者は時間の許す限り様々な事業所の見学を重ね、良いと思うことを取り入れている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、議事録の他に報告書を役場に提出している。構成員は、高齢者支援課担当、社会福祉協議会高齢者担当、第三者委員、町内会長、民生委員、利用者家族、利用者、管理者で、欠席者はいない。この会を通じて看取りまでを要望され検討を重ねている。今後は、地域の声を吸い上げたい意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者とは連絡を取り合い、相談できる関係を築いており、町役場との連携は活発である。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活状況に加えて、職員の直筆による手紙に写真を添えて、月初めに郵送で家族に報告している。職員の手紙は、家族の安心につながるきめ細かな報告になっており、家族から感謝状が届く程である。また、毎月、金銭出納帳のコピーと領収書の原本を添付し郵送している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や誕生会等行事の出席時や日頃の面会時に、些細なことでも傾聴の姿勢を持つことで信頼関係をつくり、相談や苦情が出たら運営に反映するように取り組んでいる。ご意見箱には第三者委員会や町役場の苦情相談窓口の電話番号を記し、職員外の人にも相談できるようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者をはじめ開設当時から職員も多く、非常勤職員の定着も比較的良い。職員の異動に伴う利用者へのリスクは最小限にと心がけている。また、異動についてはホーム便りで紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人教育の他、年に1回以上、県社会福祉協議会やグループホーム協議会主催の研修を受講している。また、復命書の提出や感想文を含め報告会を開いている。希望者にはケアマネ等研修の受講の機会を与え、受験に備え学習時間を事前に与えている。先輩が後輩を指導する体制も育ってきている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内にグループホームは2箇所しかない。情報交換や相談を受けることもある。他に年20箇所程度の事業所を見学させてもらってサービス向上につなげている。また、運営推進会議や包括支援センターとの交流も情報交換に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望者には体験入所を行うが、基本は傾聴を繰り返し、実態調査を重視し、生活歴を丁寧に調査して本人の意思を尊重している。職員は、自分達の関わりが鏡となると考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りの場面は勿論のこと、日頃の関わりの中で元気をもらい、人生の先輩である利用者の言動や所作から気付かされることも多く、生き方を学ばされている。ともに過ごす中で、学び支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から担当職員に介護に関わっての所感を書いてもらい、家族にはどうして欲しいかを中心にアンケートを取り、これらから思いや意向を引き出している。最終的には本人本位を大切に、自己実現の支援にも心血を注いでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良くくらすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、夫々の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族アンケートや担当職員の所感を活かして毎月フロア会議で検討し、ケアマネージャーが計画を立てている。その際、前回の計画と新しい計画を拡大し、それを見ながら意見交換をしている。ICF方式を採用し、事前のアセスメントと課題や目標、実施状況が一致しており、適切に介護計画が立てられている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護保険認定期間に応じて介護計画を作成している。また、利用者の状態に変化が生じた際は、随時見直しが行われ、現状に即した計画を新たに作成している。なお、計画作成時は、家族から意向を伺い、意見を反映させるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	困ったことがあったら充分話し合いをしている。また、通院介護は勿論のこと、家族が対応できないことは職員が対応するなど、状況に応じた柔軟な支援をしている。単独のグループホームだがボランティアも多い。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、整形外科、眼科、皮膚科の療養型病院が目前にあり協力病院である。入所前の病院を希望する場合は家族対応とするが、緊急時は職員対応が多い。病院とは良い連携が取られている。医師の指示も含め状況を記録して個人ファイルに整理し、家族には電話と手紙で経過報告をしている。また、看護職を採用し医療連携をとっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の協力を得ながら看取りをした経緯がある。運営推進会議で再度話し合い、常勤と非常勤の看護師3名を採用し、緩和ケアも含め医療連携が取れる体制にした。学習を深めて今後も重度化や終末期に対応したい意向である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に出入りする場合は声掛けは勿論、入浴、排泄などの介護場面でのプライバシー保護に注意を払っている。写真の撮影や使用も事前に家族の了解を得ている。個人情報に関する扱いは入居時に重要事項説明書で説明され、同意を得ている。また、職員には退職後も含めて個人情報の扱いの教育を徹底している。書類は鍵の掛かる事務室書庫に管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位、強制はしないをモットーにしている。散歩や外出先も利用者同士で決めたり、食事も参考書を見ながら利用者と職員で考えている。食後の時間も、自室で書に親しむ等好きな事をしたり、リビングで語り合ったり、テレビを見る等、個々のペースで過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、買い物、調理を利用者を中心に相談しながら3食とも手作りである。体力の落ちた方には無理強いはない。テーブル拭き、茶碗拭き、お茶を注ぐ等出来ることをしながら食事を楽しんでいる。状況に合わせて刻み食や軟食に替え、観察もしっかり行い、摂取状況も記入している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行っており、利用者の意向にそった入浴の支援をしている。利用者の中には、40分間入浴を楽しまれる方もいる。入浴順にも偏りないように配慮しながら、できるだけ希望に応じられるようにしている。また、入浴できない人には清拭対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を十分に調査し、さらに日頃の関わりから分かった本人の嗜好や趣味、能力などを上手に引き出し、生活の中で発揮できる場面作りをしている。職員のきめ細かな関わりと知恵で、可能な限りその人らしく生活できるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩を取り入れており、少なくとも週3日を目安に実施している。出掛ける場所も時間も利用者の希望にそって支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝6時30分から遅番が帰る20時までは施錠していない。玄関にはセンサーを利用している。中庭には5か所から出られるようになっており、利用者の自由選択を見守りながら支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと年2回訓練を実施している。消火訓練、搬送訓練、救命救急訓練を実施し、マニュアルも作成されている。連絡網テストの実施や、家族、近所の方への呼びかけ、協力要請も実施している。職員は、夜間の問題や冷静沈着な行動が出来るよう繰り返し訓練が必要と理解している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500キロカロリーを目安に献立を考えている。バランスよい献立で殆どの方が完食をしている。水分摂取においても、食事時のお茶の他、おやつ時間にコーヒーや紅茶等好みに合わせて対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周りに緑が多く、敷地内にも菜園や花壇があり、充分楽しめるスペースがある。ロジ風共用空間は清潔でゆったりと明るく、穏やかな時間が流れている。トイレ、浴室、手洗いなど安全で気持ちのよい設備設計である。利用者の書や手作り作品、お花がさり気なく飾られ、大人の趣味感覚で生活感や季節感が感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ペットを希望する人、和室を好む人、入居時に希望や好みに応じて選択できる。室内に手洗いと収納キャビネットが備え付けられ、自分の好む生活スタイルを取り入れ飾り付けている。		